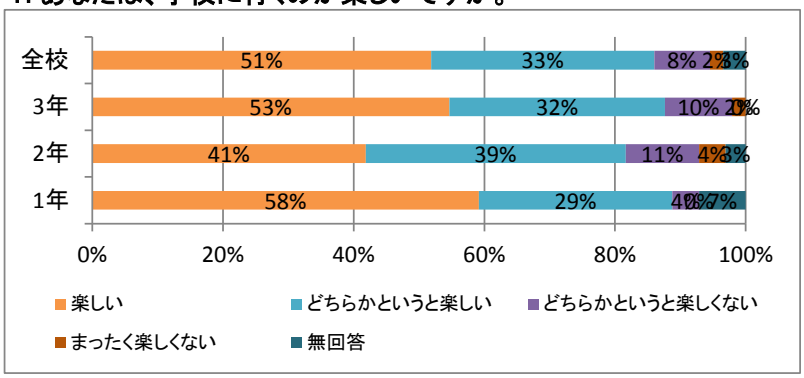
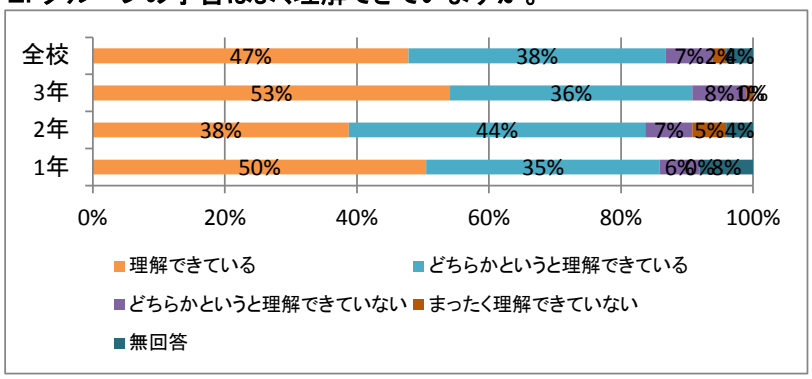
2019年度1学期学校評価（生徒）集計結果　　宇部市立桃山中学校

1. あなたは、学校に行くのが楽しいですか。



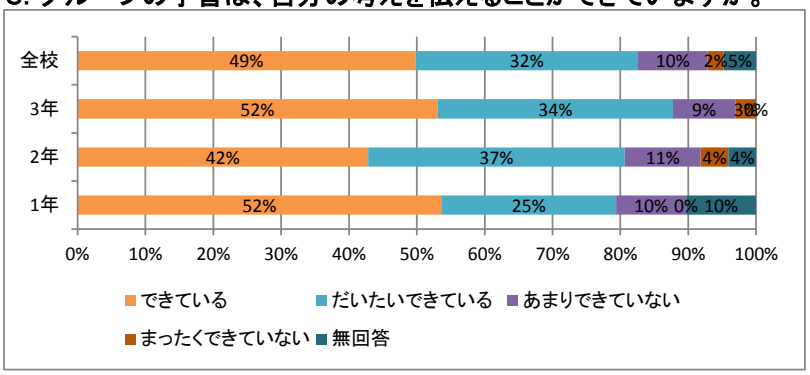
・いずれの学年も学校が楽しいと肯定的にとらえている生徒が80%を超えており、全校で84%いることは大変好ましい結果である。
・一方、「全く楽しくない」としている生徒が全体で2%、「どちらかというと楽しくない」としている生徒が8%存在する。
・全校生徒が一人残らず、喜んで登校できる学校にするためには、どうしなければならないかが今後の課題である。

2. グループの学習はよく理解できていますか。



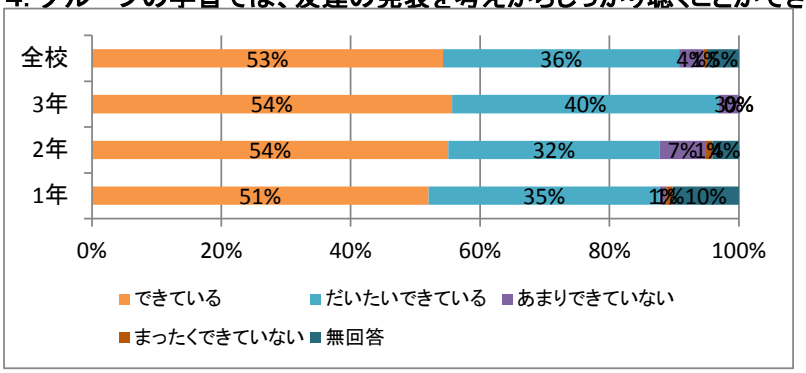
・理解できていると肯定的にとらえている生徒が全校で85%にのぼり、「学び合いのある授業」が確実に定着していると思われる。
・一方、理解できていないと、否定的な回答が全校で9%である。
・さらに、生徒どうしの「学び合い、聴き合う関係」の育成と学力向上に向けた取組の推進が求められる。

3. グループの学習は、自分の考えを伝えることができていますか。



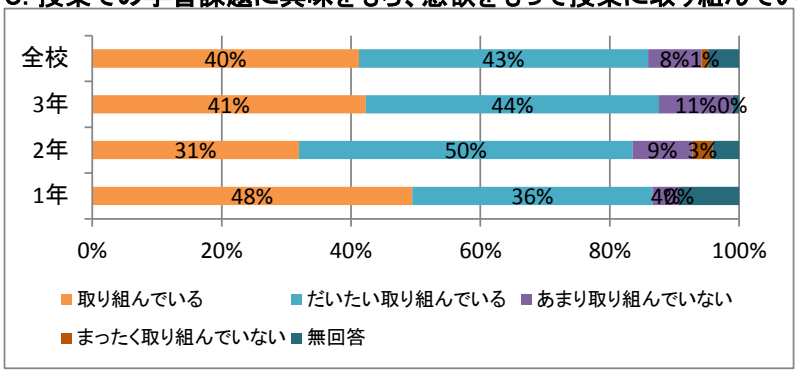
・自分の考えを伝えることができると肯定的にとらえている生徒が全校で81%である。
・一方、否定的な回答が12%であり、それは、本校の36～37人となる。
・自分の考えを述べる力を高めていくには、主体的・対話的で深い学びのある授業、本校で行っている「学び合いのある授業」の推進が必要不可欠である。

4. グループの学習では、友達の発表を考えからしっかり聴くことができていますか。



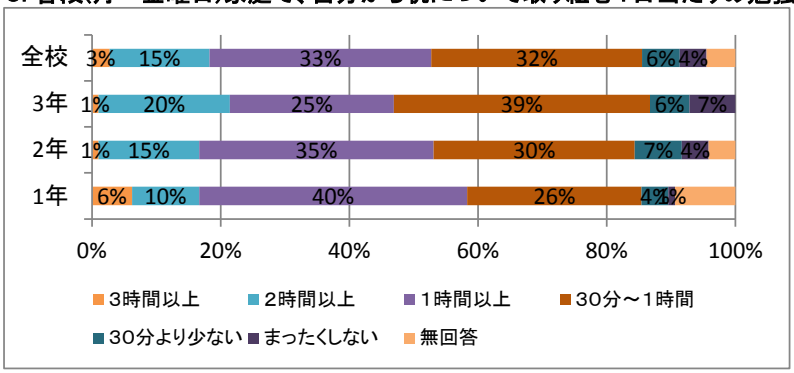
・肯定的な回答が全校で89%、いずれの学年も90%前後の生徒が、友達の発表を聴く姿勢を身に付けており、学び合いの授業が生かされていると思われる。
・聴く姿勢と学力の向上は、高い相関関係にあり、聴く姿勢が身に付いている生徒は、学習効果が期待できると思われる。
・他者の発言をしっかり聴くことにより、自分の考えが深まり、広がっていくことを理解させたい。

5. 授業での学習課題に興味をもち、意欲をもって授業に取り組んでいますか。



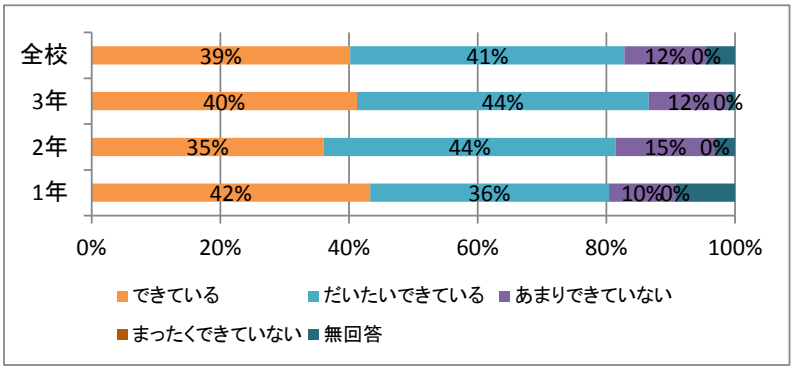
・いずれの学年も80%を超える生徒が興味や意欲をもって授業に取り組んでいる。
・一方、否定的な回答の生徒が全校で9%である。学力の向上は、授業での積極的な取組と直結するため、9%の生徒には学習に取り組む姿勢を見直し改善することが求められる。
・また、授業づくりにおいて、消極的な生徒が少しでも意欲的に取り組むよう工夫・改善が必要である。

6. 普段(月～金曜日)家庭で、自分から机について取り組む1日当たりの勉強時間はどれくらいですか。



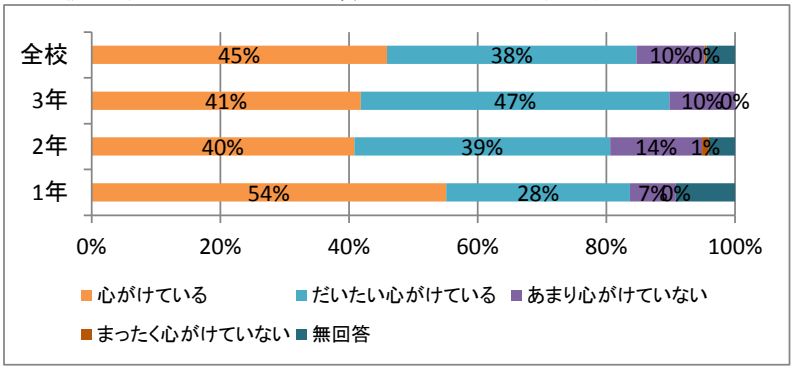
・1日の家庭学習時間は、全校では1時間以上2時間未満が最も多いが、3年生では、30分～1時間が最も多く、受験を控えている学年としては、少なすぎると言わざるを得ない。
・全校の半数近くが1時間未満であり、家庭学習時間の不足が浮き彫りとなっている。
・携帯やスマホ、ゲーム等にかける時間等、家庭生活を見直し、家庭学習時間の確保が重要な課題である。小学校、家庭との連携強化が求められる。

7. 自問清掃では、私語をがまんし、自分と向き合うことができていますか。



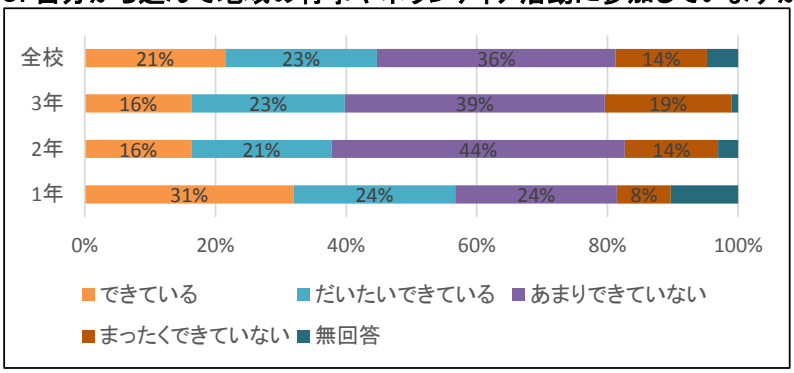
・80%の生徒が自問清掃ができていると回答しており、学年を問わず、自問清掃がしっかりと定着している。
・自問清掃の意識や取組が年々高まっており、本校の学校教育目標の一つである心みがきに一層取り組んでほしいと強く願う。

8. 学校や教室などの整理整頓を心がけていますか。



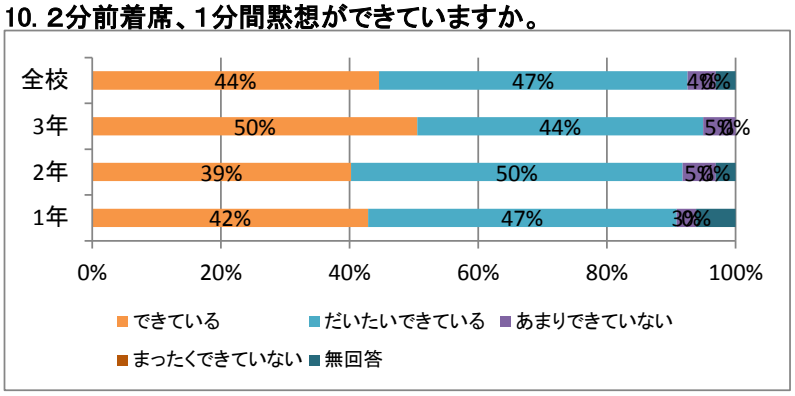
・いずれの学年も80%を超える生徒が整理整頓を心がけており、整理整頓ができた美しい学校を維持している。
・自問清掃の精神が、環境美化につながっており、美しい環境づくりが生徒の健全な成長に多大なる影響を与えている。今後も、環境衛生に細心の注意を払い、美しい学校づくりを推進していきたい。

9. 自分から進んで地域の行事やボランティア活動に参加していますか。



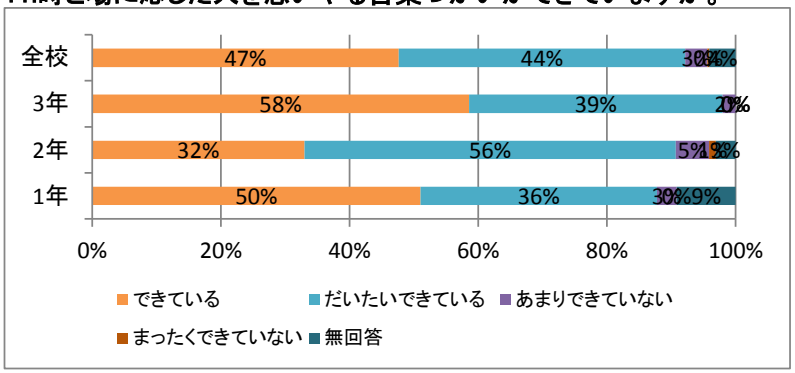
・自分から進んでボランティア活動に参加している生徒が、「だいたいできている」を含め44%である。
・ボランティアは、一度経験すると、再度参加する生徒が多いことから、活動の機会を増やすなど、本校の誇りとして、ボランティア活動を、さらに推進していかなければならない。
・校内ボランティアも実施しており、校内で培った自問清掃やボランティア活動を校外でも生かし、地域に貢献する生徒に育ってくれることを熱望する。

10. 2分前着席、1分間黙想ができていますか。



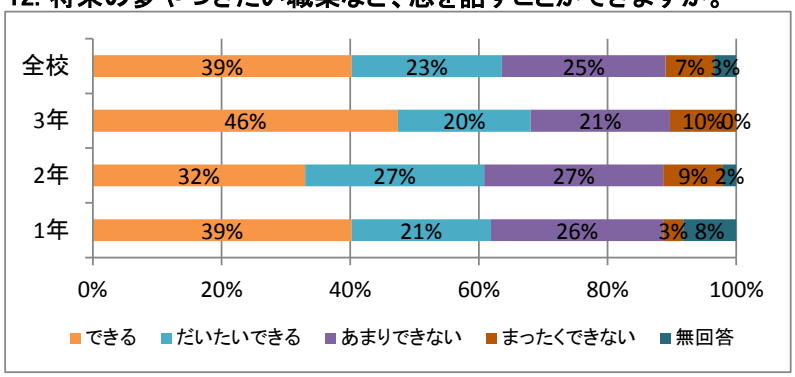
・いずれの学年もほぼ90%の生徒ができており、小中一貫教育の成果が表れている。特に、3年生の高い意識は全校に前向きな影響を与えている。
・小学校においても、学年の発達段階によって黙想を行うようになり、落ち着いた授業づくりに寄与している。
・委員の呼びかけがなくても、自ら進んで着席や黙想を行い、休憩時間と授業時間の切り替えが常時円滑になされるように意識してほしい。

11.時と場に応じた人を思いやる言葉づかいができていますか。



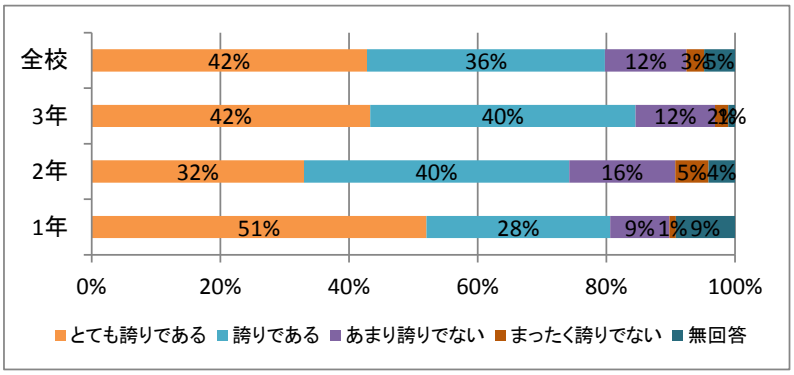
・いずれの学年もほぼ90%の生徒ができており、3年生は97%に達している。全学年で100%を目指し、いじめの根絶に向けて取り組んでほしい。
・、不用意な発言がないか、日常の会話にこそ注意を払いたい。そして、温かい言葉かけにより、好ましい人間関係を築いていってほしい。

12. 将来の夢やつきたい職業など、志を話すことができますか。



・全校では62%の生徒が志を話すことができるとしている。キャリア教育の更なる充実により、生きる力の伸張に期待する。
・「あまりできていない」「まったくできていない」と回答している32%の生徒が上位に改善していくためにも、職場体験や立志式はもとより、入学時から将来に夢や希望をもって進路を選択できるよう、全教育活動を通じて支援していく必要がある。

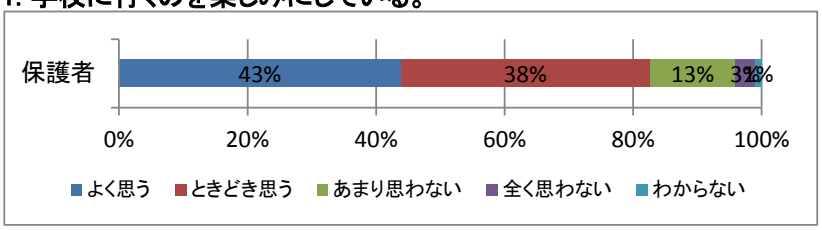
13. あなた桃山中に誇りをもっていますか。



・全校で78%の生徒が桃山中に誇りをもっているとしている。
・3年生は肯定的な回答が80%を超えているが、2年生がやや低調で否定的な回答も21%である。最上級生となる来年度に向けて、自信と誇りが高まるよう、指導・支援を進める必要がある。
・校内におけるハッピーライフ運動、校外におけるハッピー桃太郎運動を中心とし、生徒会が主体となって我が校及び我が地域に誇りをもてる取組を着実に増やしていきたい。そして、地域とともにある学校を目指していきたい。

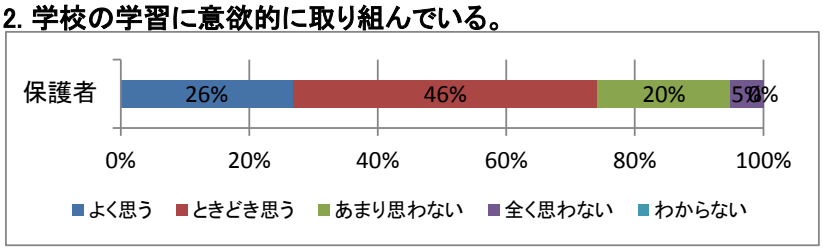
2019年度1学期学校評価（保護者）集計結果　宇部市立桃山中学校

1. 学校に行くのを楽しみにしている。



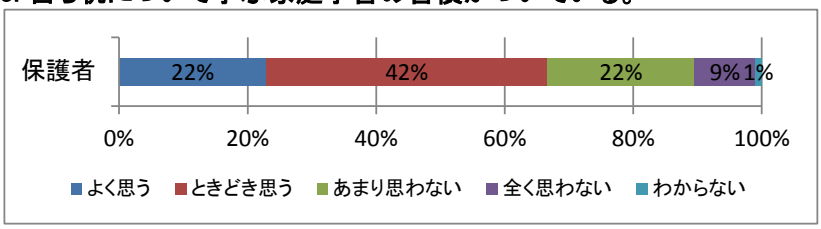
・81%の保護者が肯定的な回答をしており、生徒アンケートでも生徒の84%が肯定的な回答をしていることから、多くの生徒が学校を楽しみにしていると思われる。
・一方、否定的な回答は、保護者が16%、生徒が10%で、その値に、少し開きがある。

2. 学校の学習に意欲的に取り組んでいる。



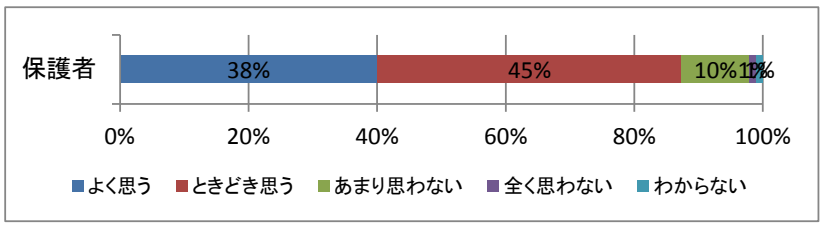
・72%の保護者が、生徒は意欲的に取り組んでいると感じているものの、25%の保護者が学習意欲にもの足りなさを感じており、意欲的でないと思っている生徒の9%を大きく上回っている。
・学習の定着度や成績も含めて、もっと意欲的に取り組んでほしいという保護者の思いが推察される。

3. 自ら机について学ぶ家庭学習の習慣がついている。



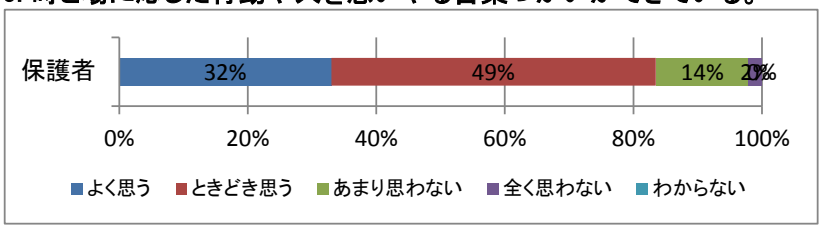
・「よく思う」が22%にとどまっている。また、生徒アンケートで、家庭学習の時間が2時間以上とする生徒の割合も18%で、ほぼ同じ割合である。
・本校生徒にとって家庭学習習慣の確立は、学力向上達成のための最重要課題である。

4. 規律ある学校生活を送っている。



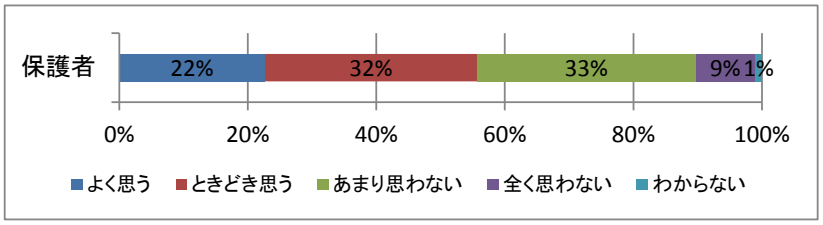
・規律ある生活を送っていると肯定的な回答をした保護者が、83%で、大半の保護者が、学校全体の規律が維持され、生徒が落ち着いた生活を送っているととらえており、学校の教育活動のとても大きな成果と思われる。

5. 時と場に応じた行動や人を思いやる言葉づかいができている。



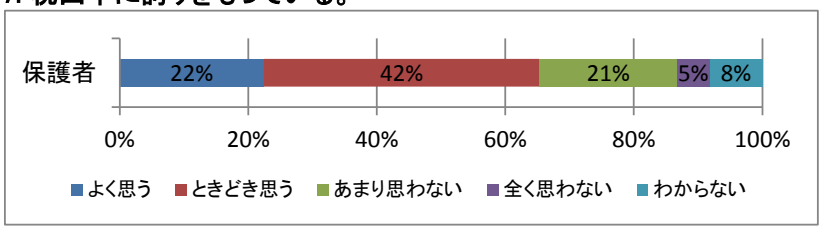
・81%の保護者が肯定的にとらえており、生徒アンケートでも91%が肯定的な回答をしている。落ち着いた学校生活の裏付けとなっている。
・思いやりの心の育成は学校教育の根幹に関わることであり、さらに取組を推進し、肯定的な回答を増やす必要がある。

6. 将来の夢やつきたい職業など自分の志を話すことができる。



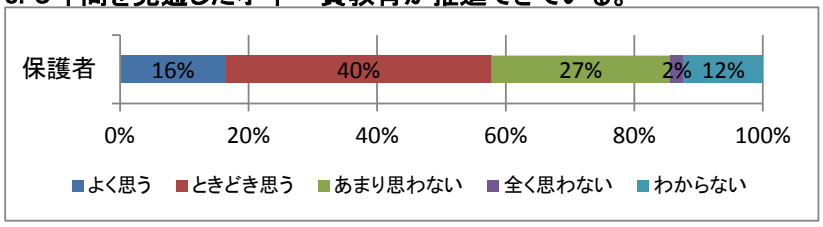
・54%の保護者が肯定的な回答をしているが、生徒の62%よりも低くなっている。将来に夢や希望をもって中学校生活が送れるよう、また、自信と誇りをもって自分の志を話すことができるよう、これまで以上に家庭との連携を深め、キャリア教育の一層の充実を図っていきたい。

7. 桃山中に誇りをもっている。



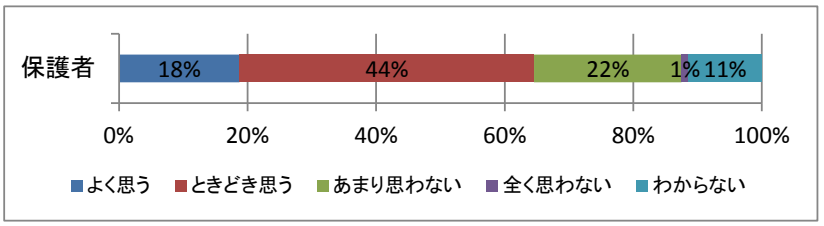
・生徒アンケートでは、78%の生徒が「桃山中に誇りをもっている」と回答しているが、保護者は64%と、生徒よりも低いものとなっている。学校教育目標の達成に向け、更なる努力を積み重ねたい。
・学校のさまざまな活動を積極的に発信し、学校評価を的確に生かすことにより、誇りのもてる生徒の育成を目指したい。

8. ９年間を見通した小中一貫教育が推進できている。



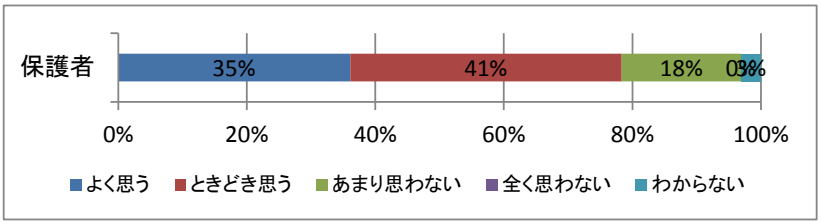
・肯定的な回答が56%で、否定的な回答が29%である。取組の充実と保護者への情報発信、理解の促進が必要と思われる。
・新川、小羽山両小学校と、児童生徒、教職員間で交流や緊密な連携を図り、宇部市小中一貫教育モデル校としての取組を充実させたい。

9.地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）ができている。



・62%の保護者が思うと考えているが、「思わない」との回答が23%である。さらなる周知と協働実践が強く望まれる。
・生徒は積極的に地域の祭りや奉仕活動に参加しており、ハッピー桃太郎運動は広まっている。学校支援や地域貢献の場を、より多く設定し、地域とともにある学校の実現を図りたい。

10. たよりやホームページ、メール配信等により、学校の情報が発信されている。



・76%が肯定的な回答をしているが、18%の保護者が否定的な回答をしている。
　学校からの緊急連絡等を考えると100%を目指す必要がある。
・保護者の方に関心をもってもらえるような内容を心がけ、家庭と連携を図りながら子どもたちの健全な成長を支援していきたい。